

世界文化遺産を大阪に

地球上には様々な人や生き物が存在しています。

多様な文化と自然の価値を認め合い、貴重な遺産を次世代に継承するために守っていくこと、それは世界遺産の重要な目的の一つです。

百舌鳥・古市古墳群は1500年もの間、人々の暮らしとともに数々の危機を乗り越え、今、私たちに受け継がれています。

この宝を人類共有の遺産として、次世代に引き継いでいくため、私たちは百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録をめざしています。



百舌鳥・古市古墳群の「顕著な普遍的価値」

バラエティーゆたかな墳墓群

日本列島には、16万基以上と言われる多数の古墳があります。古墳の形や大きさのバラエティーは、葬られた人の生前の地位や出自の差を映し出すものとみられ、各地で前方後円墳をはじめとする世界的にもユニークな墳墓が造られたことは、古墳時代の文化の最大の特徴です。百舌鳥・古市古墳群には、多様な墳形（前方後円墳、帆立貝形墳、円墳、方墳）と大小様々な規模（400m以上から20m程度まで）の古墳が密集しており、これほどバラエティーに富んだ構成の古墳群は日本中探してもほかに見当たりません。日本最大の古墳をはじめとする本古墳群は、王を中心にその親族や王に仕えた人々が葬られた墓地であったと考えられるのです。

古代王権が残した巨大モニュメント

現代の古墳は、一見樹木に覆われた森のようにみえますが、測量図をみれば、その墳丘は、左右対称の美しい姿をしていることがわかります。本来の古墳は、円・三角・方といった幾何学的図形を組み合わせることで立体的に設計された巨大なモニュメントなのです。さらに葺石や埴輪などで飾ることにより、墳丘そのものが葬送のまつりの舞台としてしつらえられていました。古墳時代は、日本列島にはじめて古代王権が誕生した時代です。このことと権力者の墓である古墳の築造は、密接に関連するものと考えられています。とりわけ王たちの葬られた百舌鳥・古市古墳群は、日本の古墳の代表例として、古代王権の中心人物たちの存在を雄弁に物語るものです。

次世代へ守り伝えるために

いつまでも美しい古墳を

百舌鳥・古市古墳群では、地元の人々がボランティアで、古墳やその周辺の清掃活動を行っています。身近で大切な古墳を美しい状態で次の世代に残していきたいという思いが伝わってきます。

まさに都会のオアシスです。子どもや孫たちのためにも大切にしていきたいですね！



仁徳陵をまもり隊による清掃活動

百舌鳥・古市古墳群を世界遺産にしよう会
中屋さん

触れ合うことから 学びつたえられるもの

昔の人々は、墳丘を里山として利用したり、瀑の水を水田に引いたり、長く古墳と共生してきました。古代からの悠久の歴史の中で、人々の生活とともに存在してきた古墳に触れることで、子どもたちはその価値を学んでいます。

古墳群のあるまちに住みたいと思ってもらえるような古墳の案内をめざして活動しています！



古市古墳群探検プロジェクト

フィールドミュージアムトーク史遊会
細見さん

